

キリストのアナキストの墓

ス叔と キリスト



「目」に入り、和田とス叔の墓を偶然みる村会が訪れた。5月2日か3日津の三津で山廉文庫最終整理の合宿に参加した。4日に京都伊豆天城の猫越部落にス叔の墓を訪れた。20日に「メシ」の向井宅に寄宿したら、長野の望月さんからのお手紙で和田ス叔の墓さがしだされたとの報が来ていて、同封の地図とスケッチをたよりに22日明石で途中下車して訪れた。

ス叔と和田ス叔の墓について、ほとんど知られていない。おそらく、和田ス叔については、望月さんが探し出さなければ、埋れてしまったかもしれない。

和田ス叔のことをス叔ボクンといい、ス叔のことをス叔ボクンとよめるのは、近藤憲三著「無政府主義者の回想」に書かれていたのからだった。

名前をいじりしか彼らについていなかった私が、にわか仕込みで、彼らの文章を目を通すべく、彼らの像が、私なりに墓石に連なると、少しずつぼび出てきた。とりわけ、大正六年暮に日暮里で共同生活しながらも、二歩実地運動をすすめるべく、労働者に働きかけたのは、おそらく、労働者自身の手による最初の運動として、注目してよいと思う。大正七年に、亀戸で、大杉と合流して、「労働新聞」を発行することになった。大杉は、このときから本場の労働者に結びついた。

和田ス叔の墓

東経二三五度の明石。緑におおわれた明石城跡。砂利の積みおろしと淡路島行きフェリーボートの明石港。その明石港にほど近いところ、和田ス叔のねむる光明寺がある。

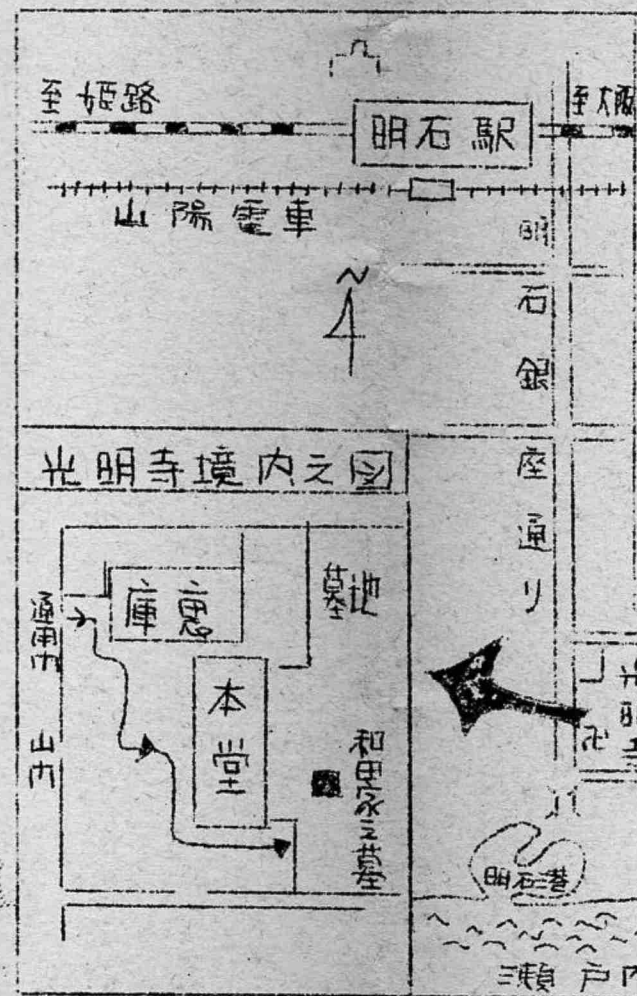
駅から南に伸びる商店街（明石銀座）を五〇〇mほど歩いた、飲食店の多い一角に、浄土宗の光明寺がある。

- ぼく自身のメモとして
- 1. 早朝、どん行で出発。風すぎ大阪。夜はヒメジ。便秘の掃除器を治療。
 - 2. 明石に途中下車。淡路島と瀬戸内海を眺める。
 - 3. 夕刻、釜ヶ崎泊り。となりの物音(?)が長にたたりした。
 - 4. 二千七百円のアスファルトほそう工事へ。
 - 5. 午前中まで雨。カッティンフのためカンヅメ。

寺の前には、公衆便所と大きなトタンで出来た淡路島行きの看板があり、人通りがまばらなのに、大型のトラックが休みなく通る。

山内は閉じられている。左手の通廊内から、植込みの間を抜け本堂の裏手にまわると、墓地に出る。左手にひのきがあり、その手前、和田家の墓がある。彼の遺骨

和田ス叔墓地 案内見取図



へ略伝

一九二八年二月二〇日、秋田刑務所監房で絶死した和田ス叔の36年の生涯ほど、数奇と波瀾にみちたものは、あまりないだろう。しかも、その一生が、波瀾転変の興味を越えて、私にちの心を切なくするものは、あまりにも人間的で赤裸々なおのれの人生を、全的に歩んだ。そのひたむきな生涯である。この墓標のなかにアナキスト群像のく和田ス叔の生涯——生活者のアナキズム——として、現代の眼「71年」に書かれている。

明治26年2月に明石に生まれ、12才で株屋の丁稚を皮切りに、さまざまな職につく。株屋店員の頃から、俳句に興味を持ち、酔峰の句をもちいて、明治45年に新報向の俳誌「紙衣」をだし、当時の俳壇で注目された。

そのうち、社会主義運動に入り、俳句はあきらめて、無期で秋田刑務所に入ると、再び俳句を作るようにした。

